

第111回新生ふくしま復興推進本部会議
第25回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議 合同会議 議事録

- 日時：令和4年3月28日（月） 11：20～11：30
- 場所：危機管理センター災害対策本部会議室（北庁舎2階）

【鈴木副知事】

それでは、新生ふくしま復興推進本部会議、福島イノベーション・コースト構想推進本部会議の合同会議を開催いたします。

早速、議題「再生可能エネルギー先駆けの地アクションプラン（第4期）（案）」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料1-1により、御説明いたします。

「再生可能エネルギー先駆けの地アクションプラン（第4期）（案）」を、関係各部署と共に策定いたしました。新たな総合計画の下、昨年末に策定した個別計画である福島県再生可能エネルギー推進ビジョン2021に基づく行動計画として、この場で決定していただきたいと考えております。

なお、第4期の計画期間は、2022年度から3年間となっております。

資料左側「2 第4期アクションプランの目標」でございますが、福島県再生可能エネルギー推進ビジョン2021で掲げた2030年度70%の達成に向け、現在進められている計画や今後の取組の成果等を勘案し、出力としては979MWの増加を見込み、2024年度までに57%を目指すことといたしました。

また、2025年度に100%を目指すこととした県内電力需要量に対する再生可能エネルギーの導入目標については、2024年度の目標を97%といたしました。

資料左下「3 取組の柱」についてであります。第3期アクションプランで掲げていた「地域主導」、「産業集積」、「復興けん引」の3つの取組は、新ビジョンにおいて「再生可能エネルギーの導入拡大」、「再生可能エネルギー関連産業集積」、「持続可能なエネルギー社会の構築」、「水素社会実現」の4つの取組の柱として整理いたしました。第4期アクションプランにおいては、この4つの柱に基づき取り組んでまいります。

資料右側には、この4つの取組の柱に基づく主な取組について記載しており

ます。阿武隈山地での風力発電の導入支援や、それに向けた風力発電のオペレーションアンドメンテナンス人材の育成、再エネ電力の地産地消の取組、物流や工場での水素利用の拡大など、全庁一丸となって進めてまいります。

【鈴木副知事】

今の説明に関して、何かありますか。なければ、原案のとおり決定することといたします。

次に、報告事項の一つ目「令和4年度風評・風化対策」について、風評・風化戦略担当理事。

【風評・風化戦略担当理事】

令和4年度風評・風化対策について御報告いたします。

前回の本部会議において、戦略を一部改訂したところですが、これに基づき、令和4年度の風評・風化対策に係る主要事業と年間スケジュールを作成いたしました。

資料2-1を御覧ください。令和4年度福島県風評・風化対策主要事業であります。戦略で定める各分野における取組について、各部局が実施する主要事業を記載しております。

次のページを御覧ください。重点対策につきましては、「国内外の理解促進」と「事業者への強力な支援」の2つの柱に沿って、新年度、各部局が取り組む新規事業や拡充する事業を中心に記載しております。

資料2-2を御覧ください。主要事業のスケジュールであります。

様々な事業を年度通して切れ目なく進めながら、東京都心で一定期間、集中的な情報発信にも取り組むなど、効果的な発信により共感の輪を広げるとともに、更なる県産品の販路拡大やブランド力の向上、観光誘客などに結びつけてまいります。

引き続き、風評・風化対策プロジェクトチームを核に各事業の進捗を確認、課題を共有しながら、全庁一丸となって効果的な風評払拭、風化防止に取り組んでまいります。

【鈴木副知事】

続いて、報告事項の二つ目「復興・再生のあゆみ」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

資料3-1横版の「復興・再生のあゆみ」を御覧ください。昨年12月に発行した第6版を更新し、第7版といたしました。

また、本資料の基礎資料となる資料3-2の「ふくしま復興のあゆみ」も更新を行い、第31版として公表いたします。

あわせて、「「新生ふくしま」の実現に向けて」、「新生ふくしま1年の動き」、「令和3年度までの福島イノベーション・コースト構想の取組」を更新し、参考資料として添付しておりますので、後ほど御覧ください。

【鈴木副知事】

今の報告事項に関して、何かありますか。
知事からお願いします。

【知事】

再生可能エネルギーの導入推進は福島県復興の大きな柱であるとともに、2050年カーボンニュートラルの実現のためにも不可欠な取組です。

昨今の世界情勢や、頻発する自然災害に対応する意味でも、再生可能エネルギーが担う役割への期待は一層高まっています。

福島県から新たなエネルギー社会のモデルを発信していくことが重要です。

引き続き、全部局が当事者意識を持って、この目標達成に向け、しっかりと取り組んでください。

今月で東日本大震災、原発事故から丸11年が経過しました。

県民の皆さんの懸命な御努力、国内外からの温かい御支援によって、福島の復興は着実に前進しました。

一方で、複合災害との戦いは長い戦いであり、この11年で終わったわけではなく、これからも現在進行形が続いていきます。

さらに、今月16日に発生した福島県沖の地震を始めとした自然災害、新型コロナウイルス感染症への対応など、度重なる困難に直面しています。

福島県のスローガン「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」の大切なキーワード、それは「実現」です。

引き続き、現場主義を徹底して一つ一つ実行し、結果を出しながら、県民の皆さんに復興を実感していただく。そういった挑戦を、新年度も続けていきましょう。

【鈴木副知事】

以上で、合同会議を終了します。